

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査を受けて

紀の川市立田中小学校

令和4年9月

4月19日に第6学年において、全国学力・学習状況調査(全国学調)が実施されました。今年度の本校調査状況の中で、顕著な部分についてお知らせします。

### 【正答率】

	本校平均	和歌山県平均	全国平均
国語	68.0	65.0	65.6
算数	62.0	63.0	63.2
理科	61.0	63.0	63.3

### 【各教科全体を通して】

- 基礎基本(漢字・計算など)の定着は見られる。
- △記号を選ぶような選択式の正答率は平均だが、「まとめる」「考える」「比較する」等の記述式正答率が低い。
- △提示されているグラフやメモなどの資料から、必要な情報を選択し、読み取る力が不十分である。

解き方がわかっているにもかかわらず、うまく説明できない・文章を書くこと自体に苦手意識を持っているから、記述式問題はもう何も書かない・・・という児童が多いことがわかりました。学習用語を理解し適切に使用することで、思考を表現する力の向上につなげていく必要があると考えます。

また、「何を聞かれているのかわからない」といった、設問自体を読み取る力の弱さもうかがえました。読解力向上のための指導法工夫改善の必要性も強く感じます。

### 【国語科】

- 漢字の読み書き等、基礎基本はほぼ定着している。
- △記述式の問題での正答率が低い。特に、記述に関していくつかの「条件」がある場合、その条件をすべて満たしつつ自分の考えをまとめるという点に課題が見られる。

### 課題解決のために

- ・学習の目的を意識させる。
- ・必要な情報を見つける力を伸ばす学習を重ねる。
- ・自分の考えをもち、文章にまとめる力を伸ばす学習を重ねる。
- ・文章を記述する際に、与えられた条件を満たしているか(どこの言葉を使用しなければいけないのか、何字以内で答えなければならないのかなど)を、回答した後に見直す習慣を身につけていくことが重要。

### 【算数科】

- 簡単な立式・四則計算・公倍数の求め方など、基礎基本は定着している。
- 割合を分数で表現する設問は平均を上回っている。
- △比例の関係を用いて、資料には記載されていない数量を求めたり、その求め方を式や言葉で説明したりすることに課題が見られる。

### 課題解決のために

- ・日常の具体的な場面などに関連づけて、割合や比例を理解できるようにする。
- ・学習用語を普段から正確に使用する場面を多くし、それらを用いて解き方を文章表現(言葉で表現)する学習を習得させる。

### 【理 科】

- 目盛りの読み方など、正しい扱いは定着している。
- △器具の名称の回答率が低い。
- △グラフなど、提示された結果を正しく読み取ったりそれをもとに分析したりすることに課題が見られる。

### 課題解決のために

- ・ICT環境を生かし、様々な視点から自分の考えの妥当性を検討させる活動を取り入れる。
- ・実験器具を実際に操作させる場面を活用し、器具名や操作方法の定着を図る。
- ・学習の中に、グループでの意見交流や他者との思考比較を行うことのできる場を設定し、より妥当な考えを持つことができるように工夫する。